

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 福島区
学校名 大阪市立吉野小学校
学校長名 定金 洋介

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 65名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では全国平均より2.2ポイント、算数では3.2ポイントと両方の教科とも下回っている。国語については、どの内容についても全国平均よりもポイントが低い。算数については、「変化と関係」の領域では全国平均とほぼ同じだが、その他の領域では、2.5~5.6ポイント低い。無回答率は、全国平均を下回っており、問題に対し、しっかりと向き合おうという意欲が見られる。児童質問紙では、設問4「自分には、良いところがあると思いますか」と設問5「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」において、肯定的な回答がそれぞれ85.9ポイントと93.8ポイントで、全国平均より上回っており、自己肯定感が比較的高いといえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

全体として全国平均を2.2ポイント下回っているが、特に「書くこと」において、全国平均より12.5ポイント低く、大きく下回っている。読み取った内容を整理し、自分の考えを踏まえて文章に書き表すことができるようにしていくことが重要である。

[算数]

全体として全国平均を下回っているが、特に「数と計算」領域において、5.6ポイントの差がある。習熟度学習を実施し、各々の持つ力を引き出して理解することができるよう取り組んできたが、さらに細かく分析をしたうえで、個別最適な学びにつなげていく。

質問紙調査より

設問7「将来の夢や目標を持っていますか」については、約85%の児童が肯定的に回答しており、全国平均を上回っている。学習や生活経験を通して、将来の自分を見据えていることがわかる。

設問46「あなたの学級では、学究生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問に対し、肯定的に回答する児童が全国平均を上回っている。話し合い活動に積極的に取り組み、問題解決へと進んでいることが実感できているとわかる。

今後の取組(アクションプラン)

主体的・対話的で深い学びを創造する授業改革を続け、思考力の向上に努める。特に、国語科「読むこと」の領域における文学的文章の指導等を研究の主眼とし、自らの考えを深める子どもの育成を目指す。また、学力を支える力として、「読書活動の充実」、「基礎・基本の定着」、「豊かな体験を通した学びを大切にする学習」を今後も継続・発展させていく。